

2023年9月上旬配本予定

『Glass Tableware in Still Life』

著者：山野アンダーソン陽子 写真：三部正博

2018年、スウェーデン在住のガラス作家・山野アンダーソン陽子の発案で、写真家・三部正博とグラフィックデザイナー・須山悠里とともに、山野が作ったガラス器を18人の画家が静物画に描く「Glass Tableware in Still Life」プロジェクトが始まりました。古くから身近なガラスという素材を媒介に、山野とさまざまな文化的背景をもつ画家たちは、言葉とイメージを通じた対話を経て作品制作を行いました。本書では、山野によるガラス器と画家たちが描いた静物画を、三部正博が画家のアトリエで8×10の大判カメラと35mmカメラを用いて撮り下ろした写真で構成しています。



『Glass Tableware in Still Life』

定価：9,900円(税込)

仕様：270 x 220 mm / 128P / 上製本

ガラス：山野アンダーソン陽子

写真：三部正博

テキスト：グンナル・ラーソン

デザイン：須山悠里

ISBN：978-4-907562-41-0 C0072



流動的で脆いガラスを画家たちが絵画に収めたとき、ガラスは絵画の中でしか存在し得ない割ることのない器となります。さらにその両者を三部の視点でとらえることで、ガラス器と静物画の関係性が、それらが佇む場所の空気感を纏いながらゆらぎとなって浮かび上がり、写真に定着されています。そユニークなプロジェクトの第一幕となるのがこの、アートブックになります。

参加作家：石田淳一、伊庭靖子、小笠原美環、木村彩子、クサナギシンペイ、小林且典、田幡浩一、八重樫ゆい、アンナ・ピヤルゲル、アンナ・カムネー他

ガラス器と静物画、写真からなる本プロジェクトの展覧会「ガラスの器と静物画 山野アンダーソン陽子と18人の画家」が2023年11月より下記美術館にて巡回開催。

会期・会場

2023年11月3日～2024年1月8日 広島市現代美術館

2024年1月17日～3月24日 東京オペラシティ アートギャラリー

2024年7月13日～9月23日（予定） 熊本市現代美術館

山野アンダーソン陽子

1978年、日本生まれ。現在スウェーデンのストックホルムを拠点に活動するガラス作家。日本の大学を卒業後、北欧最古のガラス工場であるコスタ内の学校で吹きガラスの手法を学ぶ。その後、スウェーデンの国立美術工芸デザイン大学で修士課程を修了。在学中は同国を代表するデザイナー、インゲャード・ローマンにその美学を学び、〈マーガレット・ハウエル〉をはじめ、スウェーデン、イギリス、日本などで作品を展開する。

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX: 03-3721-1922

mail:info@tsubamebook.com

TEL:03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名(番線印)	新刊 torch press		www.torchpress.net
	注文数		客注のみ(買い切り) ツバメ出版流通:川人
ご担当: 様		『Glass Tableware in Still Life』 著者：山野アンダーソン陽子 写真：三部正博	
		ISBN 978-4-907562-41-0 C0072 定価9900円(税込)	